

産経新聞 令和2年(2020年)4月6日(月)

連載記事から学んだ教師像

大学生 辻 理子 20

本紙の連載記事「夜間中学はいま」(大阪本社発行版)を読んで、教師の在り方について考えさせられた。

小学校教師をめざしている。教師は、児童や生徒たちに、一からすべて教えるのが教育だと思っていた。さまざまな理由で、学校

に行けなかった人々が学ぶ夜間中学。記事では、生徒たちのそれぞれの人生や学習ぶりを紹介していた。

個人個人に合わせた教育や授業方法が重要であると感じた。

母親と、記事について話していたら、曾祖母の時代は、女性は勉強ではなく、

家事、作法、裁縫を学んでいたという。

勉強したくても、できなかったかもしれない。晩年でも、夜間中学などを利用してほしかった。

今後、大学生活の中で、教育の授業を学ぶだけでなく、外部でボランティア活動に取り組むなどして、いろいろな知識や体験を増やしていきたいと思う。

(大阪市東住吉区)